

ななかまど

一般社団法人 猿払ななかまどの会 会報

令和2年12月1日(火)

第29号

発行：一般社団法人
猿払ななかまどの会 事務局

ななかまどの会は障がい者の社会参加を応援しています。

with コロナ 第3波到来?



ついに1日の新感染者が300人を超えた北海道。宗谷管内でもぼつりぼつりと感染者が出ています。感染者の傾向を見ると60代以上の高齢者が増えているとのこと。これは病院や介護施設でクラスターが発生したことが原因だとは思いますが。これから冬本番を迎える高齢化率の高い猿払村は、インフルエンザとともに感染に気を付けたいものです。

手洗い・消毒の励行、換気、三密の回避、マスクの着用等々日常生活を送る上では結構不自由ですが不要不急の外出は避け、ワクチン供給開始まであと半年頑張りましょう。

障がい者雇用を考える②

先月号では、特別支援学級から高等養護学校に進学した子供達は、働くためのスキルを身に付け、実習を経て「職業適性がある」と判断されれば「一般就労」が可能で、また障がいの重い子でも「就労移行支援」「就労支援継続A型事業所」「就労支援継続B型事業所」等々障がいの程度別に社会参加への継続した準備を受けることができる、というお話しをしました。

今回は、特別支援学級（中でも情緒障害学級）から普通高校へ進学する子供達、また、発達障がい疑われる人達に懸念されることを取り上げます。

普通健常者は社会参加のスキルは自分で学びます。誰かに教えてもらわなくても成長過程の中で自然と身につけていきます。職業訓練もありません。だいたい職場にはいってからすぐに仕事の内容を把握し、能力を発揮するのです。

しかし、情緒障がいや発達障がいの中で主に「対人関係を作ることに弱さのある人達」はそうはいきません。周りに「よき理解者」がいればフォローしてもらえるかもしれませんが、話が通じない、空気が読めない、表情が無いなどほとんどの場合「どこか変な人」と思われてしまいます。

では、就労のために身に付けておかなければならない「スキル」とはどういうものがあるのでしょうか。

1番目は何といたっても「返事」と「挨拶」だと思います。

2番目は、場面にあった話し方、正しい言葉遣い、態度。

3番目は、困ったことがあったりわからないことがあったりしたら「人に聞くことができる」ことだと思います。

この3つは主に表面的なものですが、最近は店員の中でもできない人が多くなっているような気がします。この3つ以上に必要になってくるのが「先を見通す力」です。(以下次号)

ななかまどの会で「パン作り」以外で取り組んでいること

●農園活動

ななかまどの会で「パン作り」以外に取り組んでいることとして農園活動があります。昨年まではキャベツや白菜、ブロッコリーなどを栽培し道の駅の売店で販売していましたが、今年は販売が難しくなったために「ニンニク」と「ジャガイモ」「菊芋」を育てました。

今年度村民農園の移動があったためか、「ジャガイモ」は収穫量も多く、大きい立派な芋ができました。ニンニクは全量を「黒にんにく」にして札幌に出荷しています。ご存じのようにニンニクは秋に植えて夏に収穫する植物ですので来年度収穫する分は10月に植えました。



ニンニクの植え付け風景

昨年から取り組み始めたのが「菊芋」です。これも収穫までに1年かかります。最近、菊芋に含まれている「イヌリン」という物質が「血糖値を下げる」ということでスーパーなどで見かけるようになりました。今年収穫した分は全量を「種芋」にして増産する予定です。

なぜ農園活動か？もちろん障がい者が「これなら働けるかな」という仕事を試行錯誤しながら見つけているのです。



今年収穫した菊芋

●ななかまど放課後塾

ななかまどの会の社員の子供7名が登録しています。週5回3時間ほど開設しています。宿題をしたり、自主学習をしたり勉強だけではなく、工作や塗り絵、パズル、編み物、囲碁・将棋、子供たちの興味関心に基づいて色々なことに取り組んでいます。先月は「ジャガイモの皮むき」「リンゴの皮むき」にも挑戦しました。「経験を広げる」ことが目的です。いろいろな挑戦の中から「きらっと光る才能」見つけてあげたいのです。



人気のある塗り絵

楽遊館のパンは11月から完全予約になりました。

その週の火曜日までお申し込みいただき、金曜日午後3時からのお渡し、あるいは配達となります。店頭での販売はありません。

新しい注文用紙を用意しました。お気軽に注文してください。FAXでも電話でもかまいません。(4-711)